

主とエリヤ

(1列王記19・1〜18)

一、北王国の預言者エリヤ

エリヤの時代(紀元前9世紀)、イスラエルは北王国イスラエルと南王国ユダに分かれていました。エリヤは忽然と現れ、北王国の王アハブのところに行き、「私が仕えているイスラエルの神は生きておられる。私のことばによるのでなければ、ここ数年の間、露も降りず、雨も降らない」と語りました(1列王記17・1)。これは、主なる神のさばきの言葉でした。

干ばつから三年目のことです。エリヤはカルメル山で、たった一人で、450人のバアルの預言者を相手に闘いました。双方が祭壇を築き、薪の上に雄牛を載せ、火をもって答える神こそ神であるとし、まずバアルの預言者たちが祈り求めました。しかし朝から昼まで祈り求めても、何も起こりませんでした。その後、エリヤが祈りました。すると、天から火が降りました。エリヤは、「主こそ神です」と語り、主に立ち返った民に言いました。「バアルの預言者たちを捕らえよ。一人も逃すな」と。

さらに、エリヤが祈ると三年半ぶりに雨が降ってきました。列王記には三年半ということが書いてないのですが、

新約のヤコブ書に、干ばつが三年半続いたと書かれていますので、そういう伝承になっていたのであります。

二、主は取り扱われた

1節をご覧ください。アハブは、エリヤがしたこと、預言者たちを剣で皆殺しにしたことの一部始終をイゼベルに告げた。とあります。イゼベルはアハブ王の後でした。イゼベルはフェニキアの王エテバアルの娘で、北王国にバアル礼拝を広めました。狡猾で策略家であったイゼベルは、夫のアハブを始め、北王国を思うように動かしていました。そういうイゼベルが語りました。2節です。すると、イゼベルは使者をエリヤのところに遣わして言った。「もし私が、明日の今ごろまでにおまえのいのちをあの人たちの一人のいのちのようにしなかったなら、神々がこの私を幾重にも罰せられるように。」と。

たった一人で、450人のバアルの預言者を相手に闘ったエリヤでしたが、イゼベルが語った言葉を聞くと、萎えてしまいました。3節、4節です。1列王記19・3〜4

さて、ここからが読み応えのあるところ。神は立ち直れなくなりました。エリヤをどのように取り扱われたのでありましようか。5節、6節です。19・5〜6

続いて、7節、8節

です。19・7〜8 どうやら、エリヤは死にたいと思いつつ、神の山ホレブ(シナイ山のことです)に行こうと思っていたようです。預言者だましいと言ったところなのでしょうか。神は、

エリヤがホレブに行くことができるように、支えられました。ホレブに付くと、主ご自身の取り扱いが始まりました。9節、10節です。19・9〜10 ここで、エリヤが主に答えた言葉をご覧ください。しかし、イスラエルの子らはあなたとの契約を捨て、あなたの祭壇を壊し、あなたの預言者たちを剣で殺しましたと語っています。事実を曲げて捉えています。事実は、バアルの預言者との闘いに勝ち、民が立ち直ったと書かれています。また、あなたの預言者たちを剣で殺しました」と語っています。18章には、オバデヤというアハブ王に仕える宮廷長官で、主を深く恐れていた人物が、主の預言者100名を洞穴に入れてかくまい、パンと水で彼らを養ったと書かれています。さらに、

彼らは私のいのちを取ろうと狙っています」と語っています。彼らとは、イスラエルの民のことを指しているのでしょうか。ですが、エリヤのいのちを狙ったのはイゼベルであって、民ではありません。

私は、エリヤという預言者は病的な気質を持った方であるとお見受けしております。ですが、神はどのような方を

も用い、憐み、丁寧に取り扱われるお方です。

主はさらに、エリヤをどのように取り扱われたでしょうか。11節、12節です。19・11〜12とあります。ここに書かれている激しい大風(地震)火はすべて、主が通り過ぎたこととの現れです。そして、主ご自身はへかすかな細い声でエリヤに語られました。ようやくエリヤは、洞穴から外に出ました。すると主は、再びエリヤに語られました。13節です。19・13 エリヤは答えました。14節です。19・14 うむ? 10節の答えとまったく同じです。人間的に見るなら、回復がむずかしいように見えます。ですが、主はエリヤを回復させられました。どうやってでしょうか。任務を授けることによってです。それが、15節より17節です。19・15〜17 さらに、主はエリヤの思いを修正されました。18節です。19・18 主の取り扱いによってエリヤが回復したのは、19節前半を見るときに分かります。エリヤはそこを去って、シャファテの子エリヤを見つけた。という一文です。エリヤはそこを去って、とは、エリヤが新しい任務を知ったからこそ、立ち直って、そこを去ったことを知ります。

神は、すなわちイエス・キリストによって御自身を現された父・子・聖霊なる神は、人を立ち直らせる神です。